

## 巻 頭 言

### 自分の頭で考えよう

会長  
花岡 正紀



自動車業界は、国境を越えて、再編の渦中にあります。

エレクトロニクス業界は、情報通信技術でブレークスルーしようとしています。

自動車部品はモジュール/システムによる軽量化、コストダウンに加えて、お客様が飛びつく魅力が求められています。もちはもち屋で、得意な分野を持った企業が協力して、画期的なモジュール/システムを提案せねばなりません。

一方、商品サイクルは早まっており、開発期間の短縮は至上命題となっています。

開発のスピードアップのためにも、開発テーマの選択と集中を図り、協業による補完関係を築き上げていきます。

協業により良い製品を作り上げるためには、自分の担当する部品に期待される機能は何か、インターフェースは、使われ方はどうかに加えて、組合せる他社製品の理解等、視野を広く持って、幅広い知識を身につけることが不可欠です。

一方、我々自身の得意とする技術分野は、さらに磨きをかけ、世界一のレベルになれば生き残ってはいけません。会社の技術力の差は、天才的な技術者が居るかどうかがよりも、ケーススタディの数の差によって決まる、というのが私の持論です。

極寒地から熱帯までの気象条件、設計者の想像を越える使われ方、各国のお客様の好みや要求レベル等、市場経験が技術力を引き上げます。世界中のいろんな自動車メーカーや部品メーカーに取引を拡大することで、ケーススタディを増し、技術力の向上につなげたいと思います。

技術者1人ひとりのレベルアップのためには、表題に掲げた「自分の頭で考える」ことが一番重要です。「お得意様の要求だから」「上司に言われたから」「従来からこうしているから」と思考を停止したまま仕事をしていないでしょうか。

なぜ、このような設計になっているか、試験評価条件はこれで良いか、前提条件は正しいか等、自分なりに理解して下さい。

頭をフレキシブルにし、固定観念を打破らねば、画期的な新製品は生まれません。

蛇足ですが、前提条件に要注意という事例を、私の経験から述べてみます。

ずいぶん昔の話ですが、東京モーターショーの場に、「あなたに最適な車を選んであげます」というコンピュータ診断のコーナーが設けられていました。

年齢、性別、職業、趣味、年収、好きな食べ物、行きたい外国、等、数多くの質問に答えると、最もふさわしい車種とグレードがアウトプットされます。コンピュータ診断といえば、一般の人には権威があるように受け取られているが、実態は違います。

このケースでは、色々な質問をしているが、車種選びはほとんど、年収で振り分けていたようです。そして、何よりも重要な前提条件は、コンピュータに入っている車種は全てN社製であった、ということです。